

浄土宗教化研修会館 完成記念シンポ 「共生を理念としたこれからの寺院を考える—どう活かす—」

僧侶研さん 原点に戻る



浄土宗の研修道場「浄土宗教化研修会館」(京都市東山区)の完成を記念したシンポジウム「共生を理念としたこれからの寺院を考える—どう活かす—」が8日、同会館で開かれた。寺院内、僧侶をどう育てるか、今後の宗教はどうかあるべきなのか、伊藤唯眞・浄土門主や宗教学者・山折哲雄氏らが、参加した同宗僧侶ら約90人の心に語りかけた。

伊藤 唯眞 浄土門主

基調講演 現代こそ自

伝統教団は、現代社会でどう生きていくべきか。浄土宗の精神を次代にどう伝えていくのか。浄土教化や姿勢を持つべきなのではないか。私は原点に帰ることが大事だと考えています。法然上人はどのように説法し、人々に接していったのでしょうか。最晩年を過ごした弟子の源智上人が、師の一週忌にあたり遺立された阿弥陀仏の像内に残した願文が今に伝わっています。「先師は、化物をもって心と為し、利生をもって先と為せばなり」。法然上人は、人々を念仏で導いて教化することを生涯の課題とし、人々の利益を一番に考えていたのです。源智上人は師のそんな生き方を継ぎたいと願いました。また、「自他共に五悪塵を

寺の門戸広げ 苦悩聞く



行政書士 勝 桂子氏

藤本 まずは浄土宗、僧侶のあり方について、意見をいただきたいと思っています。山折 今、寺院が消滅すると言われます。豊かな社会でありながら寺院は希望が持てません。私がかねてから棟方志功という芸術家の魂には宗教的なものの心が隠れていると考えていました。棟方はわがゴッホになら、と言いつつ青森から東京に出たゴッホの最高傑作の一つ「釈迦十大弟子」という板画があります。10人の弟子は個性的に描かれていますが、釈迦は描かれていない。私は、棟方の目的が人間の深掘りだったので、釈迦を表現の対象にできなかったのだと思っています。その後同じようなことをして



宗教学者 山折 哲雄氏

「法然目指す」若い世代を

やまざき けいこ 1965年、東京都出身。国際基督教大学、フライング・チャールズ・カレッジの経営学修士。画等の相模業務を行う。著書に「いらいお坊さん ひらいお坊さん」など。

藤本 浄土宗が引継ぎを担うにあたって発表された宣言の核の一つに「愚者の自覚」がありますが、今回のシンポジウムのテーマ「共生」ともいえる。この関係についてどうお考えですか。山折 愚者は宗教家のあり方ではないか、というのではないでしようか。人々のために何かをするには、まず一人になることから始めるべきではないかと、腹をくくるところも始まるかな。藤本 そうすると共生とは矛盾すると思われませんか。人間は一人生まれ、一人死ぬ。共生はその過程の問題で、共に生きながら一人の自覚を大事にするということですね。藤本 浄土宗が引継ぎを担うにあたって発表された宣言の核の一つに「愚者の自覚」がありますが、今回のシンポジウムのテーマ「共生」ともいえる。この関係についてどうお考えですか。

他の精神

神」です。この願文に込められた精神を、今生かしていくのは我々自身です。実証できる存在だけを信じ、目に見えない存在は信じない風潮が現代社会にあります。法然上人の教えを、どうやって人々の心に届けることができるのかは、浄土宗に課せられた大きな課題です。伝統教団は絶えず刷新し、成長していかなければなりません。自他の精神で実働していくことが、新たな生命を吹き込むことにつながると思っています。



藤本 浄彦氏

ふじもと けいこ 1944年、山口県生まれ。早稲田大学、ドイツ・マールブルク大学、研究員、佛教大学教授、同大副学長を歴任した。文学博士。西園寺住職。コーディネーター・浄土宗総合研究所所長

浄土宗教化研修会館

浄土宗教化研修会館は、同宗の研修拠点として、総本山知恩院(京都市東山区)の山内にある源光院を改修、整備した。地上3階、地下1階で、延べ約1580平方メートル。100人収容できる大ホールや図書室などを備え、浄土宗総合研究所も入る。住職になる資格を得た僧侶「教師」の仏教学や布教活動に関する専門性を高めるとともに、社会活動の分野で活躍できる僧侶の育成も目指している。

「新纂 浄土宗大辞典」刊行

浄土宗が編集していた「新纂 浄土宗大辞典」が完成した。浄土宗の関連用語だけでなく、仏教一般や宗教学、民俗学など広範な領域をカバーしている。旧版の1.4倍にあたる約9100語を収録し、略年表や参考資料などの付録も充実させた。2万7000円(税別)、B5判1580ページ。問い合わせは、浄土宗出版(03・3436・3700)。

法然上人

正式には法然房源空。1133年(長承2年)、美作国(現在の岡山県)に武士の子として生まれる。9歳の時、夜襲で父を失い、出家。15歳で比叡山に登り、修行に入る。43歳の時、中国・善導大師が記した著書をもとに「専修念仏」の道に入り、浄土宗を開創。1212年(建暦2年)に入寂した。「智慧第一」とされながら徹底した自己省察で自らを凡夫とした。京都・東山吉水(現在の知恩院の地)を拠点に生涯、民衆に寄り添い、阿彌陀仏の救いに寄り添う万人平等往生を説いた。

浄土宗教化研修会館

[総本山知恩院山内 源光院]



法然上人の立教開宗の精神に則った 社会に対応する僧侶の研修道場

愚者の自覚を 家庭にみ仏の光を 社会に慈しみを 世界に共生を

浄土宗は僧侶の研修に邁進します。

浄土宗 Jodo Shu Buddhist Denomination http://jodo.or.jp